

## 見学会の感想

豊田雅信



神山町小野さくら野舞台の世話人の方の一言が頭に残っています。「文化財や言うても使わなんだからなんじゃでーな」つまり、「使ってなんぼ」と言うようなことでした。使えば傷みもするが、使われることこそ活かされること。大事にはするが、使わないでおこうとするのは間違いだ。と言うふうには理解しました。今、伝えられるうちにやらなくては、と言う心意気が伝わりました。

今山の舞台も、地元の方ががんばりで補修され、つぎの代へと引き継がれていくような雰囲気伝わりました。私達もお役に立てたらいいなあと思いましたが。

中川美恵子

神山、小野さくら野舞台、ここでもまた地元の人たちのあたたかいお顔がありました。先日犬飼でお会いした小川さんご夫妻のお話もお伺いできました。

「小野さくら野舞台」の名目の由来は、屋号のように、その土地で「さくら」の呼び名があり、「さくら」と言えば小野だとわかるのだそうです。アルバムの中に明王寺のしだれ桜の写真を見せていただきましたが、「小野さくら野舞台」にぴったりで、ぜひ桜の季節にも人形芝居を見たいなあと思いました。ふすま絵がたくさん保存されているので、早く修復できればと思います。帰りに新鮮なすだちのおみやげまでいただき、ありがとうございました。

勝浦今山農村舞台 町の文化財に指定さ

れ修理され復活されるという新聞記事を見た時、地元の人たちにより生き返る舞台と、いつ取りこわされるかわからない「椿の浜の農村舞台」を思いました。できるだけ多くの舞台が復活できることを祈ります。

佐藤憲治

「歓迎 阿波農村舞台の会御一行様」の看板に、まずびつくり。小野さくら野舞台復活実行委員会のみなさまの熱意に心から感謝いたします。鳥居をくぐり坂道を上っていくと、竜や千畳敷のふすま絵を並べてくれていました。ふすま絵は、神山町内全体で約一五〇枚が残されているとあって、小野地区でもかなりの数を保管しています。竜や虎が画面一面に描かれたものや松に鶴が絶妙の配置で描かれたもの、千畳敷や紗綾型など、犬飼のふすま絵とはまた趣向の違ったものが



多数ありました。

犬飼農村舞台でのふすまカラクリ研修会に、小野さくら野舞台復活実行委員会の方々にもご参加いただきましたが、ぜひこの貴重なふすま絵を神山でも復活させていただきたいものです。

勝浦の今山農村舞台では、文化庁の補助金を活用して、舞台の幕等を整備したのことに続き、今年度は建物の修復を行ったことでした。外壁はトタンから葺板張りに変更、壁の塗り直しや舟底舞台の土間のたたきの修復、腐っていた柱の切り接ぎなどを地元の方たちが、ほとんど出役で実施したそうです。これは、農村舞台という地域に残された貴重な文化的伝統を守り伝えていこうという、地元の方たちの熱意の賜であると思います。微力ながら阿波農村舞台の会が、このような各地域の活動のお手伝いができればと思います。

